



E コマンド

この章では、コマンド名が E で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

ethalyzer local interface

スーパーバイザまたは管理インターフェイスからの（への）パケットを取り込むには、**ethalyzer local interface** コマンドを使用します。パケットのキャプチャを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ethalyzer local interface {inband | mgmt} [[capture-filter capt-expression] [display-filter  
disp-expression] [limit-captured-frames limit] [limit-frame-size bytes] [write location]] [brief]
```

```
no ethalyzer local interface {inband | mgmt} [[display-filter disp-expression] [capture-filter  
capt-expression] [limit-captured-frames limit] [limit-frame-size bytes] [write location]] [brief]
```

シンタックスの説明

inband	スーパーバイザ モジュールとインターフェイス モジュール間でやり取りされるパケットをキャプチャします。
mgmt	mgmt0 ポートへの（からの）パケットをキャプチャします。
capture-filter <i>capt-expression</i>	(任意) 式に基づいて出力の表示をフィルタリングします。式は引用符で囲まれたストリングです。
display-filter <i>disp-expression</i>	(任意) 式に基づいて出力の表示をフィルタリングします。式は引用符で囲まれたストリングです。
limit-captured-frames <i>limit</i>	(任意) キャプチャする最大フレームワーク数を設定します。範囲は 0 ~ 2147483647 で、デフォルトは 100 です。
limit-frame-size <i>bytes</i>	(任意) フレームから設定したバイト数をキャプチャします。範囲は 64 ~ 65535 です。
write <i>location</i>	(任意) キャプチャした情報を設定した場所に保存します。保存場所は、64 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
brief	(任意) キャプチャしたパケットのプロトコル サマリーを表示します。

コマンドのデフォルト設定 パケットをキャプチャしません。

コマンド モード Any

■ ethanalyzer local interface

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Cisco Ethanalyzer は Wireshark オープンソースコードに基づいています。
このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、mgmt 0 ポート上のすべてのパケットをキャプチャする設定例を示します。

```
switch# ethanalyzer local interface mgmt
#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ethanalyzer local read	キャプチャしたパケットデータを Ethanalyzer キャプチャから読み取ります。

ethanalyzer local read

Ethanalyzer によってキャプチャされたパケットを読み取るには、**ethanalyzer local read** コマンドを使用します。キャプチャしたパケットの読み取りを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ethanalyzer local read *location*

no ethanalyzer local read *location*

シンタックスの説明	<i>location</i>	キャプチャしたパケットが読み出される場所。64 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
------------------	-----------------	---

コマンドのデフォルト設定	なし
---------------------	----

コマンドモード	Any
----------------	-----

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	Cisco Ethanalyzer は Wireshark オープンソースコードに基づいています。 このコマンドにライセンスは不要です。
-------------------	---

例	次に、mgmt 0 ポート上のすべてのパケットをキャプチャする設定例を示します。
----------	--

```
switch# ethanalyzer local read bootflash:test-mgmt0
#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ethanalyzer local interface	スーパーバイザまたは mgmt0 ポートへの（からの）パケットをキャプチャします。

event cli

Cisco NX-OS Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) コマンドとのパターンマッチによって起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event cli** コマンドを使用します。

CLI コマンドのイベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event cli match regex [count countnum] [time interval]
```

```
no event cli match regex [count countnum] [time interval]
```

シンタックスの説明

match regex	CLI コマンドとのパターン マッチに使用する正規表現 (<i>regex</i>) を指定します。CLI コマンドの構文解析に成功するとパターンマッチが行われます。パターンマッチでは、完全に展開された CLI コマンド ストリングと比較します。正規表現に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
count countnum	(任意) EEM イベントがトリガーされるために必要なマッチ回数を指定します。マッチ回数を省略すると、最初のマッチで EEM イベントがトリガーされます。 <i>countnum</i> 引数は 1 以上の整数でなければなりません。
time interval	(任意) 1 回以上のマッチを行う必要がある場合の実行間隔を指定します。このキーワードを省略すると、実行間隔はチェックされません。 <i>interval</i> 引数は、0 ~ 4294967295 の整数 (秒数) です。

デフォルト

なし

コマンド モード

Embedded Event Manager

サポートされるユーザ ロール

スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、EEM アプレットによるマッチの対象となる CLI コマンドを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet eventcli-applet
switch(config-applet)# event cli match "write memory.*" time 13
switch(config-applet)#
```

event counter

名前付きカウンタがしきい値を超えた場合に起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event counter** コマンドを使用します。

カウンタ イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event counter name name entry-val value entry-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} [exit-val value exit-op {gt
| ge | eq | ne | lt | le}]
no event counter name name
```

シンタックスの説明

name <i>name</i>	監視するカウンタの名前を指定します。 <i>name</i> 識別子には任意のストリングを指定できます。
entry-val <i>value</i>	カウンタ イベントを発生させるかどうかを決定するために、現在のカウンタ値と比較する値を指定します。 <i>value</i> は -2147483648 ~ 2147483647 (境界値も含む) の数値です。
entry-op <i>op</i>	現在のカウンタ値を入口値と比較する際に使用する演算子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • gt — より大きい • ge — 以上 • eq — 等しい • ne — 等しくない • lt — より小さい • le — 以下 <p>マッチが見つかると、イベントがトリガーされ、終了条件が満たされるまでイベント監視がディセーブルになります。</p>
exit-val <i>value</i>	(任意) 終了条件が満たされているかどうかを決定するために、現在のカウンタ値と比較する値を指定します。 <i>value</i> は -2147483648 ~ 2147483647 (境界値も含む) の数値です。
exit-op <i>op</i>	(任意) 現在のカウンタ値を出口値と比較する際に使用する演算子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • gt — より大きい • ge — 以上 • eq — 等しい • ne — 等しくない • lt — より小さい • le — 以下 <p>マッチが見つかるとイベントが起動され、イベント監視が再イネーブルされます。</p>

デフォルト

なし

コマンド モード

Embedded Event Manager

■ event counter

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、定義済みの *critical_errors* カウンタが入口値を超えると起動される EEM アプレットのイベント条件を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet eventcntr-applet
switch(config-applet)# event counter name critical_errors entry-val 3 entry-op gt
switch(config-applet)#
```

event fanabsent

ファン欠損イベントに基づいて起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベントマネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event fanabsent** コマンドを使用します。

ファン欠損イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

event fanabsent [*fan number*] *time interval*

no event fanabsent [*fan number*] *time interval*

シンタックスの説明	
fan number	(任意) ファン欠損イベントの監視対象となるファン番号を指定します。 <i>number</i> の範囲は 1 ~ 4 です。
time interval	ファンが欠損したまま放置できる時間間隔 (秒) を指定します。 <i>interval</i> の範囲は 0 ~ 4294967295 秒です。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、ファン欠損イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet absent-applet
switch(config-applet)# event fanabsent time 42
switch(config-applet)#
```

event fanbad

ファン不良イベントに基づいて起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベントマネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event fanbad** コマンドを使用します。

ファン不良イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

event fanbad [*fan number*] *time interval*

no event fanbad [*fan number*] *time interval*

シンタックスの説明	
fan number	(任意) ファン不良イベントの監視対象となるファン番号を指定します。 <i>number</i> の範囲は 1 ~ 4 です。
time interval	ファンが不良のまま放置できる時間間隔 (秒) を指定します。 <i>interval</i> の範囲は 0 ~ 4294967295 秒です。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、ファン不良イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet bad-applet
switch(config-applet)# event fanbad time 42
switch(config-applet)#
```


event gold

1 つまたは複数のモジュールを監視しているときの Generic Online Diagnostic (GOLD) 障害イベントに基づいて起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event gold** コマンドを使用します。

GOLD 障害イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event gold module {module | all} test name [severity {minor | moderate | major}] testing-type {bootup
| ondemand | scheduled | monitoring} consecutive-failure cnt
```

```
no event gold module {module | all} test name
```

シンタックスの説明

module {*module* | **all**} 1 つのモジュールまたはすべてのモジュールを監視する必要があることを指定します。

- *module* — 監視する個々のモジュールの番号
- **all** — すべてのモジュールを監視対象とします。



(注) **event gold** コマンドを実行する場合、**module** キーワードは必須です。

test name イベント条件のテスト名を指定します。

severity (任意) 診断結果のイベント条件にマッチする GOLD 診断エラーを指定します。

- **minor** — マイナー GOLD 診断エラー
- **moderate** — 中程度の GOLD 診断エラー
- **major** — メジャー GOLD 診断エラー

testing-type GOLD の診断テスト タイプに基づいてイベント条件を指定します。

- **bootup** — システム起動時に実行する診断テストを指定します。
- **ondemand** — モジュールがオンラインになったあと、CLI から起動される診断テストを指定します。
- **schedule** — スケジューリングされた診断テストを指定します。
- **monitoring** — システムのヘルス状態を監視するためにバックグラウンドで定期的に行われる診断テストを指定します。

consecutive-failure cnt GOLD の連続テスト障害情報に基づいてイベント条件を指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール

スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、任意のモジュールで新規の GOLD 障害イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# event manager applet gold-match  
switch(config-applet)# event gold module all test atBoot testing-type bootup  
switch(config-applet)#
```

event manager applet

Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) にアプレットを登録してアプレット コンフィギュレーションモードに入るには、**event manager applet** コマンドを使用します。

設定からアプレット コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

event manager applet *applet-name* [*override name*]

no event manager applet *applet-name*

シンタックスの説明		
<i>applet-name</i>		アプレットの一意な識別子。この識別子には任意のストリングを指定できません。
<i>override name</i>		(任意) システム ポリシーを上書きするポリシーを指定します。 <i>name</i> は上書きされるシステム ポリシーの名前です。ポリシー名は、2 つの連続するアンダースコアで始まっていなければなりません。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザ ロール
 スーパーユーザ
 VDC 管理者
 VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、EEM にアプレットを登録して、アプレット コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet eem-applet
switch(config-applet)#
```

event manager clear counter

Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) カウンタをクリアするには、**event manager clear counter** コマンドを使用します。

event manager clear counter *counter-name*

シンタックスの説明	<i>counter-name</i> クリアするカウンタの名前を指定します。
------------------	---

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	Embedded Event Manager
-----------------	------------------------

サポートされるユーザロール	スーパーユーザ VDC 管理者 VDC ユーザ
----------------------	-------------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは不要です。
-------------------	--------------------

例	次に、EEM カウンタをクリアする例を示します。
----------	--------------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager clear counter eem-counter
switch(config)#
```

event manager clear history events

すべての Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) イベント履歴を消去するには、**event manager clear history events** コマンドを使用します。

event manager clear history events

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、すべての EEM イベント履歴を消去する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager clear history events
switch(config)#
```

event manager environment

Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) 環境変数を設定するには、**event manager environment** コマンドを使用します。

EEM 環境変数をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

event manager environment *varname* *varvalue*

no event manager environment *varname*

シンタックスの説明

<i>varname</i>	EEM 環境変数の名前を指定します。
<i>varvalue</i>	環境変数 <i>varname</i> 内に格納するストリング (空白文字を含む)

デフォルト

なし

コマンドモード

Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール

スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、EEM 環境変数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager environment _cron_entry 0-59/2 0-23/1 * * 0-7
switch(config)#
```


event manager policy

Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) ポリシーを EEM に登録するには、**event manager policy** コマンドを使用します。

設定ファイルから **event manager policy** コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

event manager policy *VSHscriptfilename*

no event manager policy *VSHscriptfilename*

シンタックスの説明	<i>VSHscriptfilename</i>	EEM に登録する VSH スクリプト ファイルの名前を指定します。この名前が EEM ポリシー名になります。
		
	(注)	システム ポリシー名は 2 つの連続するアンダースコア (_) で始まります。

デフォルト なし

コマンドモード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

EEM は、ポリシーに含まれているイベント指定に基づいてポリシーをスケジューリングおよび実行します。**event manager policy** コマンドを実行すると、EEM によってポリシーが検査され、指定したイベントの発生時に起動されるよう登録されます。


例 次に、ポリシーを登録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager policy fanpolicy.vsh
switch(config)#
```

event manager run

登録済みの Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) ポリシーを手動で実行するには、**event manager run** コマンドを使用します。

```
event manager run policy-name
```

シンタックスの説明	<i>policy-name</i>	実行する登録済み EEM ポリシーの名前を指定します。
		
	(注)	システム ポリシー名は 2 つの連続するアンダースコア (__) で始まります。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザ ロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、登録済みの EEM ポリシーを手動で実行する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager run fanpolicy.vsh
switch(config)#
```


event module-failure

モジュール障害イベントに基づいて起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベントマネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event module-failure** コマンドを使用します。

モジュール障害イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event module-failure type err-name module {all | module} count count [time interval]
```

```
no event module-failure type err-name module {all | module} count count
```

シンタックスの説明

type <i>err-name</i>	障害条件のタイプを指定します。次のいずれかの <i>err-name</i> 条件を選択します。
any	任意の障害
addon-sequence-failure	アドオン シーケンス障害
hitless-upgrade-diag-failure	中断のないアップグレード後のランタイム診断障害
hitless-upgrade-failure	中断のないアップグレード障害
hitless-upgrade-procmgr-notif	中断のないアップグレード後の LC ソフトウェア障害
hitless-upgrade-reg-failure	中断のないアップグレード後の登録障害
hitless-upgrade-seq-timeout	中断のないアップグレードシーケンス タイムアウト
image-download-failed	イメージダウンロード障害
image-upgrade-failed	イメージアップグレードエラー
insertion-seq-failure	挿入シーケンス エラー
lc-failed	LC エラー
lc-not-responding	LC 未応答
lc-ready-timeout	LC レディ タイムアウト
lc-sw-failure	LC ソフトウェア エラー
registration-failure	登録エラー
registration-timeout	登録タイムアウト
runtime-diag-failure	ランタイム診断エラー
runtime-diag-timeout	ランタイム診断タイムアウト
sequence-timeout	シーケンス タイムアウト
srg-info-resp-timeout	SRG 情報応答タイムアウト
unexpected-registration	予定外の登録を受信
upgrade-srg-not-compatible	SRG アップグレードが非互換

module { <i>module</i> all }	1 つのモジュールまたはすべてのモジュールを監視する必要があることを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>module</i> — 監視する個々のモジュールの番号 • all — すべてのモジュールを監視対象とします。
count <i>count</i>	(任意) モジュール障害イベントがトリガーされるために必要なマッチ回数を指定します。 <i>count</i> は、0 ~ 4294967295 の範囲で指定します。
time <i>interval</i>	(任意) イベント発生までの規定待ち時間 (秒) を指定します。 <i>interval</i> の範囲は 0 ~ 4294967295 秒です。

デフォルト なし

コマンドモード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、モジュール障害イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet modfail-applet
switch(config-applet)# event module-failure type unexpected-registration module 6
count 2
switch(config-applet)#
```

event oir

ハードウェアの活性挿抜 (online insertion and removal; OIR) 時に発生するイベントに基づいて Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) アプレットが起動されるように指定するには、**event oir** コマンドを使用します。このコマンドには、**fan**、**module**、**powersupply** の 3 つの形式があります。

設定から活性挿抜の指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event oir {fan | module | powersupply} {insert | remove | anyoir} [number]
```

```
no event oir {fan | module | powersupply} {insert | remove | anyoir} [number]
```

シンタックスの説明

fan	システム ファンを指定します。個々のファンを個別に指定することもできます。
module	システム モジュールを指定します。個々のモジュールを個別に指定することもできます。
powersupply	システム電源装置を指定します。個々の電源装置を個別に指定することもできます。
insert remove anyoir	EEM アプレットを起動する活性挿抜イベントを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • insert — 活性挿抜を装着 • remove — 活性挿抜を取り外し • anyoir — 活性挿抜を装着または活性挿抜を取り外し
<i>number</i>	(任意) fan を選択した場合は、活性挿抜イベントの監視対象となるファンの番号を入力します。 <i>number</i> の範囲は 1 ~ 4 です。 module を選択した場合は、活性挿抜イベントの監視対象となるモジュールの番号を指定します。 <i>number</i> の範囲は 1 ~ 10 です。 powersupply を選択した場合は、活性挿抜イベントの監視対象となる電源装置の番号を指定します。 <i>number</i> の範囲は 1 ~ 3 です。

デフォルト

なし

コマンド モード

Embedded Event Manager

サポートされるユーザ ロール

スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、モジュール活性挿抜が行われたときに発生するイベントに基づいて EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet oir-applet
switch(config-applet)# event oir module anyoir
switch(config-applet)#
```

event policy-default

システム ポリシーが上書きされるときにイベントを使用するには、**event policy-default** コマンドを使用します。

上書きされたポリシーを使用するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
event policy-default count count [time interval]
```

```
no event policy-default count count
```

シンタックスの説明	count count	time interval
	デフォルトのイベントがトリガーされるために必要なマッチ回数を指定します。 <i>count</i> の範囲は、0 ~ 4294967295 です。	(任意) イベント発生までの規定待ち時間 (秒) を指定します。 <i>interval</i> の範囲は 0 ~ 4294967295 秒です。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザ ロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、システム ポリシーが上書きされるときにイベントを使用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event policy-default count 6
switch(config)#
```

event snmp

Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) オブジェクト識別子の値をサンプリングすることによって起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベントマネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event snmp** コマンドを使用します。



SNMP イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event snmp oid value get-type {exact | next} entry-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} entry-val value
[{exit-comb {or | and} exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value exit-time time} | {exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value}] poll-interval value
```

```
no event snmp oid value get-type {exact | next} entry-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} entry-val value
[{exit-comb {or | and} exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value exit-time time} | {exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value}] poll-interval value
```

シンタックスの説明

oid <i>value</i>	<i>value</i> 引数に SNMP オブジェクト識別子 (オブジェクト ID) をイベント条件として指定します。 <i>value</i> のデータ要素は、SNMP ドット付き表記で指定する必要があります。OID は MIB に関連付けられた型として定義され、各型がオブジェクト値を持ちます。一部の OID 型のモニタリングが可能です。 oid キーワードを使用すると、OID が次のいずれでもない場合にエラーメッセージが返されます。 <ul style="list-style-type: none"> • INTEGER_TYPE • COUNTER_TYPE • GAUGE_TYPE • TIME_TICKS_TYPE • COUNTER_64_TYPE • OCTET_PRIM_TYPE • OPAQUE_PRIM_TYPE
get-type	oid <i>value</i> 引数で指定したオブジェクト ID に適用する SNMP get 操作のタイプを指定します。
exact	oid <i>value</i> 引数で指定したオブジェクト ID を検索します。
next	oid <i>value</i> 引数で指定したオブジェクト ID の英数字順で取得します。
entry-op <i>op</i>	現在のオブジェクト ID 値を入口値と比較する際に使用する演算子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • gt — より大きい • ge — 以上 • eq — 等しい • ne — 等しくない • lt — より小さい • le — 以下 <p>マッチが見つかる、イベントがトリガーされ、終了条件が満たされるまでイベント監視がディセーブルになります。</p>
entry-val <i>value</i>	SNMP イベントを発生させるかどうかを決定するために、現在のオブジェクト ID 値と比較する値 (<i>value</i>) を指定します。
exit-comb	(任意) イベント監視を再イネーブルするために満たす必要のある終了条件の組み合わせを示します。
and	(任意) 終了比較演算子、終了オブジェクト ID 値、および終了時間値を指定する必要があります。

or	(任意) 終了比較演算子、終了オブジェクト ID 値、または終了時間値を指定する必要があります。
exit-op op	(任意) 現在のオブジェクト ID 値を出口値と比較する際に使用する演算子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • gt— より大きい • ge— 以上 • eq— 等しい • ne— 等しくない • lt— より小さい • le— 以下 <p>マッチが見つかったらイベントが起動され、イベント監視が再イネーブルされます。</p> <p> (注) exit-comb キーワードを定義した場合、このキーワードと引数は必須になります。</p>
exit-val value	(任意) 終了条件が満たされているかどうかを決定するために、現在のオブジェクト ID と比較する値を指定します。 <p> (注) exit-comb キーワードを定義した場合、このキーワードと引数は必須になります。</p>
poll-interval value	連続するポーリング操作間の時間間隔を指定します。value 引数は、1 ~ 4294967295 の整数 (秒数) です。最小のポーリング間隔は 1 秒です。

デフォルト なし

コマンドモード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、SNMP オブジェクト識別子値をサンプリングすることによって起動される EEM アプレットのイベント条件を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet snmp-applet
switch(config-applet)# event snmp oid 4.2.1.6 get-type next entry-op eq entry-val 42
poll-interval 2
switch(config-applet)#
```

event storm-control

ストーム制御イベントに基づいて起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベントマネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event storm-control** コマンドを使用します。

ストーム制御イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

event storm-control

no event storm-control

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、ストーム制御イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet storm-applet
switch(config-applet)# event storm control
switch(config-applet)#
```

event temperature

温度イベントに基づいて起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event temperature** コマンドを使用します。

温度イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event temperature [module module] [sensor number] threshold {major | minor | any}
```

```
no event temperature threshold {major | minor | any}
```

シンタックスの説明	
module <i>module</i>	(任意) 監視する特定のモジュール (<i>module</i>) を指定します。モジュール 1 ~ 10 のいずれかを選択します。
sensor <i>number</i>	(任意) 監視する特定のセンサー (sensor) を指定します。 <i>number</i> の有効範囲は 1 ~ 18 です。
threshold {major minor any}	EEM アプレットを起動するしきい値イベントを指定します。 major 、 minor 、 any (major または minor) のいずれかを選択します。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザ ロール スーパーユーザ
VDC 管理者
VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、温度イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet temp-applet
switch(config-applet)# event temperature threshold major
switch(config-applet)#
```


event track

指定したオブジェクト番号の Object Tracking サブシステム レポートに基づいて起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event track** コマンドを使用します。

レポート イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event track object-id state {any | up | down}
```

```
no event track object-id
```

シンタックスの説明	object-id	追跡するオブジェクト番号を指定します。有効なオブジェクト番号は 1 ～ 500 (境界値も含む) です。
	state {any up down}	イベントを発生させる、追跡対象オブジェクトの状態移行を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • up — 追跡対象オブジェクトがダウン状態からアップ状態に移行したときにイベントが発生 • down — 追跡対象オブジェクトがアップ状態からダウン状態に移行したときにイベントが発生 • any — 追跡対象オブジェクトが任意の状態から任意の状態に移行したときにイベントが発生

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザ ロール
 スーパーユーザ
 VDC 管理者
 VDC ユーザ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは不要です。

例 次に、追跡対象オブジェクトの状態が変化したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet tracking-applet
switch(config-applet)# event track 42 state down
switch(config-applet)#
```

